

尙後方には世界地圖と日本地圖の黒板白地圖を二面と時事問題用の黒板を掲げ其の側に地理参考書棚を備へて研究の資料にするやうにする。左右の陳列臺の下にはS形の釘を付けて地方別に地圖を横にかけるやうにする。

四周の壁上には地圖をかける爲に釘を打つておく事が必要である。殊に正面の黒板上には天井に接した最上部と黒板との間と二段に釘の用意をすれば一層便利であるし、黒板上にかけた掛圖類を自由に移動するやうにS形の掛金を用意することよい。天井と黒板の間も利用するとよい只今私はこの部分に本邦主要貿易品の繪畫を點し利用してゐるが面白いやうに思ふ。

なほ教室は暗室装置を要するので、左右の採光窓には黒縹子の幕を用意する。此の幕は滑車装置で糸を引けば左右に開かれ、反對の糸を引けば幕が左右から中央部に進んで兩方から合するやうにする。

近時映畫教育の研究につれて白晝映寫出来るやうに進んでゐるさうであるが尙此の領域に達するには可なり時を要する。

内部

正面には黒板と同長の教壇を置かねばならない。教卓は標本や繪葉書類をたくさんのせるだけの餘裕がほしい。殊に標本や繪葉書等實際學習の際活用するには兒童に示す順序を定めて教卓上に廣く並べておかねばならないから長さは二米七、八十浬幅七、八十浬高さ七、八十浬位にして置き、その下に數箇の抽斗を取りつけ地圖や其他標本類を入れ又之等をとめる紙、物差、定規等用意しておけば便利である。

兒童用の机は腰掛と分離し長さ一米七、八十浬幅七、八十浬位にする。これは教科書や地圖類を擴げるためと作業に使用するためである。一脚に二人の兒童を並べて、一教室五十名内外としたいがこれは土地の事情によることであるからそれ相應の設備をしたいものである。

其他模型箱は實習の部で述べておいたがこれは兒童用の机の下にのせるやうにして必要なる場合机上に出すやうにするがよい。材料は机の下に作った抽斗に入れておくことよい。小黒板を用意して各地方の圖を教師が記入して置き又方眼板にしておくこと使用上便利である。

衡立式の標本臺を用意して繪畫や圖表をどめておくことが出来るし蝶番で衡立面に直角に

幅の細長い臺が出来る装置にして學習中使用した標本をこゝにのせておくもよい。地圖類は左右後方の陳列臺の下方にS形の釘をつけて各地方別に横にかけるやうにすると便利である。

郷土館兼標本室

郷土館は教室と同形にこゝり五間に六間の三十坪とし教室との出入を自由にしておく。採光と通風に注意を拂ひ室の二面を硝子窓にするは勿論天井の一部をすり硝子にすれば一層よい。教室のスクリーンの近くに映寫室をつくる必要がある。縦横が一米四十厘位の室で晝間電氣を引き、何時でも映寫されるやうにし、振子廻によつて自由に高低を調節し得る臺の上に映寫機を取りつけておくことにする。

標本棚は二方又は三方を硝子にすると甚だよいのである。長さ六尺、奥行一尺七寸位で高さは五尺五寸位でよいと思ふが中段は陳べる標本の大小によつて加減し得るやうにする。戸棚の下部には矢張抽斗が三つ位あつてよい。この配當は黒板の背面に一箇並べて二間位において四箇において陶器漆器織物其他の産物を陳列する。出入口の近くには同形位の府縣別標本箱を置いてこれに六十許りの小抽斗をつけ三府四十三縣、北海道、樺太、朝鮮、臺灣

關東州、滿洲、支那、アジヤ洲、ヨーロッパ洲、アフリカ洲、南北兩アメリカ洲、大洋洲南洋委任統治、地文等に區別して各地の繪葉書及び小さな標本類を入れておくのである。地圖箱は長さ六尺幅が二尺位高さが五尺五寸位の箱を作り、二列の抽斗をつけ下部は相當に深い抽斗として分度器磁石其他の物を入れ上部の抽斗は淺くして地圖や圖表等を入れておくのである。

地球儀や三球儀模型類を保管するには長さ六尺幅三尺で高さ五尺位の戸棚を要する。掛圖類は縦四尺横三尺位高三尺五寸位の掛圖掛をつくつてよく分類しておくことよいのである。尙此の室は準備室の性質を備へてあるものであるから製圖用の大テーブルも教師用の机と椅子の必要な事はいふまでもなく又教師用の参考書戸棚を設けて研究の資に供する。これまでは主として地理の標本室の一般を述べて來たが次に郷土館としての一般を述べて見たい。勿論郷土館及び郷土教育は後日發表したいと思つてゐるがこゝには單に地理標本室併用の場合のものを述べて見たいのである。郷土館入口の壁面に郷土の大地圖を掲げ其の左右に郷土の自然美の寫眞、天然記念物、其他圖表等をかゝげる。

以上特別教室と郷土館の一般を述べて来たから如何なる標本類参考書類を撰定すべきか具體的に述べて見たい。

標本類

標本として選定上注意すべきは教科書にあらはれてゐる物を主とするが、その外にも教授上必要な直観材料で現在及び將來に對して經濟上、學術上重要なもの及び日常生活に係深い實用的價值のあるものも入れねばならない。

そして單に精製品だけでなく製造の順序を示したものが重要である。

個々の標本について云へば成るべく堅牢で特長を具備するものがよい。そして適當の大きさを有することが撰定の條件になる。尙同一の物産でも形態、種類の多いものは代表的のものを選びたい。

一、農、林、礦、水産物等

内地米(各種)、臺灣米、朝鮮米、葉煙草、朝鮮大豆、朝鮮人蔘、豆粕、豆油、藍、木蠟、繭生糸標本、静岡茶、葡萄酒、蠶卵紙、宇治茶、野田醬油、泡盛、灘酒、烏龍茶、砂糖、洋紙、パルプ、土佐半紙、美濃紙、蝦夷松、檜松、落葉松、白樺、大理石、樟、銅、鐵

鐵、燐鐵、金鐵、石炭、原油、燈油、輕油、重油、鯨油、養殖眞珠、土佐節、錫、薩摩節、明太魚、伊豆節、石首魚、天日鹽、珊瑚、海苔、昆布、牡蠣の瓶詰、練卵。

二、陶磁器に関するもの

薩摩燒、有田燒、萬古燒、出雲燒、名古屋燒、犬山燒、金澤硬質陶器、粟田燒、清水燒、九谷燒、瀬戶燒、相馬燒、會津燒、七寶燒。

三、漆器に関するもの

若狹塗、山中塗、金澤塗、高岡塗、輪島塗、琉球塗、根來塗、黒江塗、静岡塗、津輕塗、會津塗。

四、織物に関するもの

桐生織、足利織、八王子織、濱縮緬、刺繡、秩父絹、伊勢崎銘仙、米澤織、川俣羽二重、仙臺平、福井羽二重、甲斐絹、富士絹、西陣織、友禪染、緞通、綿ネル、伊豫絨、久留米絨、小倉織、博多織、つちや足袋、大島紬、薩摩絨、琉球絨、黄八丈、縹子、蚊張地、天竺木綿、天鵝絨、麻布、芭蕉布、更紗、カシミヤ、アルバカ、モスリン、金巾。

五、細工物其他に関するもの

埋木細工、南部鐵瓶、岐阜提灯、岐阜團扇、廣貫堂の薬、竹細工、刀物、壘表、花筵、マツチ、麥稈眞田、奈良墨、博多人形、錫器、阿旦帽、水晶細工、人種模型、水牛角、バナマ帽、竹筏模型、セルロイド製品、ゴム製品、革細工、柳行李、雜貨。

六、外國品に關するもの
印度棉、米國棉、印度米、コブラ、チーク材、磚茶、椰子油、マニラ麻、マニラ煙草、珈琲、マロカニー、橄欖、バナマ帽、英國製綿布、鐵製品、佛國製絹織物、葡萄酒、タバ、チーズ標本、リプトン茶、コ、ア、人造絹糸、羊毛標本、極樂鳥、駝鳥の卵、駝鳥の羽毛、智利硝石標本、貿易品標本。

七、模型に關するもの
關東、奥羽、中部、近畿、中國四國、九州地方模型、箱根山、阿蘇山、同高線説明模型、雪よけトンネル、横濱港、鹽田、天日製鹽田、インクライン、ループ式鐵道、鐵橋、水力發電所、アイヌの家屋、朝鮮人家屋、バナマ運河、ピラミッド、スイッチボックス式鐵道無線電信局。

標本を蒐集するには標本製造所又は商店から購入するのであるが直接工場から求むると安

價に得られる。而も工場、會社、役所等に知らんとするものについて教示を願へば回答に接せられる。外國品は領事館に依頼すると便利である。統計類は實費と郵送料とを送つて諸官衙から得られ殖民地には殖民地紹介の要覽があるから寄贈してもらへばよい。鐵道省には「重要貨物情況」、東京無線電信局庶務課には無線電信、遞信省電氣局監理課には水力發電事業についてあらはされたものがあるから参考になると思ふ。商工省貿易課には「最近重要貿易品國別輸出入額表」「日本重要貿易品輸出額表」についての刊行物があるので都合がよい。繪葉書は郷土の府縣のものと各府縣のものと交換してもらふやうにすると便利で教師兒童父兄等ともに蒐集に心掛けてゐると長い間には次第に完備し得るものである。

参考書類

學習指導地理教材の有機的統合
附圖及挿繪の活用地理教授の實際
修正地理書に據る地理學習指導
地理教授の革新的新主張

栗原寅次郎 大同館
坂本 豊 目黒書店
鶴居 滋一 明治圖書
齊藤 英夫 郁文書院

具體化する教材と教授法	西龜 正夫	原生閣
地理學習指法精義	清水 甚吾	東洋圖書
大日本地理精説	栗原寅次郎	大同館
大日本帝國地理精義	小林房次郎	南光社
日本地理大系	改造社	改造社
改造世界地理精説	栗原寅次郎	大同館
世界地理精義	小林房次郎	南光社
改造外國地理	長谷川與三治	博文館
世界地理風俗大系	新 光 社	新 光 社
世界の大地勢	朝日常識叢書	
太平洋問題	同	
地形學	辻村 太郎	古今書院
日本地形誌	同	同
人文地理學研究	小川 琢治	同

都市地理研究	小田内 通敏	刀江書院
郷土地理研究	同	同
郷土地理の研究	栗原寅次郎	大同館
地理附圖讀方と實習法	石原初太郎	好文書院
重要問題人文地理學解説	工藤 暢須	中興館
重要問題地文地理學解説	同	同
經濟風土記	大阪毎日社	
地理教育大觀	合 著	南光社
商工省統計表	商工省官房	統計協會
本邦重要鑛山	商工省鑛山局	
大日本貿易年表	大 藏 省	東京統計局
日本帝國統計年鑑	内閣統計局	
日本國勢圖會	矢野 恒太	日本評論社
時事年鑑	時事新聞編輯局	

理科年表	東京天文台
外國ポケットアトラス	啓成社
日本ポケットアトラス	東京啓成社
世界精圖	同
日本精圖	帝國書院
最近世界地圖	同
最近日本地圖	東京三省堂
家庭學校地理學習	同
趣味の日本地理	齊藤・山内
小學生の地理	角田・橋本
推理日本地理	鶴居滋一
鐵道旅行案内	鐵道省
旅行案内	鐵道省
兒童の地文學	西田與四郎
	博文館
	駁々堂
	東洋圖書

我等の國土
中等地理教科書
商品鑑定
地理辭典

田中啓爾 目黒書店
田中・小川
小原・小濱 東京瞭文堂
守屋・合著 帝國書院

第九章 尋五の地理指導

組織的な系統的な地理教育は本學年から始めることになつてゐるがそれ以前に於て地理的生活があることは屢々述べて來た通りである。しかし兒童はその事を地理として學習してゐる者は極めて少くて、大部分の兒童は分科的の地理の學科に非常に興味を持ち期待を持つてゐるので此の期の指導といふものが興味を惹起させる上に大なる力ともなり又危惧の念を抱かしめることになつて餘程慎重に研究せねばならない。然らば此の機の兒童をして如何に指導すべきか各項について述べて見たい。

一、郷土地理の指導

郷土地理については中學年の地理指導の場合に述べて置いたがこれは低學年中學年と繼續的指導を要するものであつて尋五といへども始期に於ての郷土地理それ以後の郷土地理と續くものであるから能力と身体の發育狀況を顧慮し自己の府縣の大要だけを學習させておくことよいのである。

勿論時間數からいへば四時間内外で内容については私が著した鹿兒島縣郷土地理位でよいと思ふのである。この學習をする間に地理的既知觀念を整理して行くやうにする。

二、讀圖の指導

地理學習上讀圖の必要なることは論ずるまでもないことで特に尋五の初期には此の方面の指導に留意すべきである。これから附圖によつて如何なる点を指導整理してゆかねばならないか順を追ふて述べて見たい。

(第一圖)

(1) 方位 此の圖には方位が稍々かけてゐる。方位は子午線からの角距離を云ふのである。子午線は南北の方向を表はすものであるから甲地に居て乙地の方角を決定するには甲乙兩地を結ぶ直線が甲地を通る子午線となす角を測つて何度東又は西に傾いてゐるかをき

めるのである。方位の呼び方は八方位位でよいと思ふ。

(2) 經緯線 地球上で位置を定めるには南北兩極を通る圈即ち子午線(經線)と赤道圈及びその並行圈とによるのである。經線は南北の方位を示し上下の方向に普通は引かれて上方は北、下方は南になつてゐる。

緯線は東西に引かれ右は東、左は西の方になつてゐる。

(3) 縮尺 これは充分に指導しておかねばならない。地表を縮圖に描き表す際に定めた一定の比例尺で長さに関するものであつて面積の比例ではないこと。

圖例は天津市附近であらう。面積の割合もこれで充分理解せしめたい。距離測定は比例尺を用ひるがよい。面積は概略計算でよい。又方眼紙による方法もよい。

(4) 高度示法 土地の高低を表示する方法に水平曲線によるもの、ケバによるもの、ボカシによるものの三法があるが是等を併用したものも二三ある。

A 水平曲線圖 これは等高線圖とも云ひ地表の同じ高度の地点を連絡した線を圖上に表はし某地の高さ、傾斜の工合を知ることが出来る。土地の高さは普通海水面を基準として實測するのであるから海拔何米と示すのである。

海水基準面は我國では十二ヶ所に干満の驗潮器を備へ其の平均を取つて中等潮位を決定し之を基準に全國の地高を定める。今日の地圖は東京灣の中等潮位を東京靈岸島で測つて水準原点を設け之を我が國の海水基準面としたのである。

鉛殻を利用して表はしてあるから充分に理解せしめておかねばならない。

水平曲線圖の特色

- 1、一系の水平曲線は基準面に對して何れの地点も同じ高さにある。
 - 2、水平曲線の屈曲が簡單なるは地形の單純なるを表はし、相隔つてゐるのは緩傾斜地で、相接近してゐるのは急傾斜地であることを示す。
 - 3、水平曲線は谷又は河を横ざることなく谷があれば上流に向つて凹入して方向を示す
 - 4、水平曲線の相重なるは地形の垂直なることをあらはす。
- 水平曲線の長所
- 1、精密にして確實であること。描圖の基礎となる。
 - 2、土地の縦、横断面圖は水平曲線によらねば不確實である。
 - 3、隧道開掘等には缺くべからざるものである。

B ケバ圖 これを描くには先づ等高線を引き、之を基礎として等高間線に之と直角に數多の細線を引くのである。其の太さと數とは傾斜が急になるに隨つて大に緩になれば小さるのである。

ケバ圖の特色

- 1、線を以つて斜面に陰影をつけて地形の變化を明瞭にしたものである。
- 2、高まりを表示するには便利であるが凹地を表すには少し不便である。
- 3、山脈の方向河川の方向が判然として地形を一目で讀める。

C ケバ曲線圖 曲線圖とケバ圖との長所をとつたもので理想的の描法である。新地理附圖の主圖は悉く此の描法を採用してゐる。設色累層圖の如く土地を階段の如く誤認する心配がない。

D ボカシ圖

- 着色の濃淡によつて傾斜の緩急を表はす方法である。左の特色を有する
- 1、水平曲線の如く階段的に見えるやうな不自然なく、ケバより土地の高低を想像し易い
 - 2、着色の濃淡によるのみであるから描法は簡單である。
 - 3、高低の表示は不正確である。

(5) 陸高と水深

二〇四

陸高はメートル法により〇―百―三百―千―二千―三千米以上としてあるが三百米までが薄縁にしてあるのに注意せねばならない。

水深は〇―百―千―二千―三千―四千―五千―六千米以上に分けて海底地形をあらはしてある。水深では二百米線が必要である。

(6) 諸記號 讀圖に二方面あることは前に述べたが本當に地圖の内容をよむには記號を了得してゐねばならない。

この部には全体的のものがあげられ一地方に必要なものは其所で教へられるやうにしてあるから其の点を考へておかねばならない。

(第二圖)

(1) 雨量

雨量は降水量といひ、雨のみの量と考へる者があるが空中から降下した雨、雪、霰等水の総量である。雨天といふのは一日中の降水量が〇・一耗以上に達した日を云ふのである。雨量測定には雨量計を使用する。雨量計は普通口径二十釐の圓筒の中に同口径の漏斗を入

れ、漏斗に落下した降水を圓筒の水瓶に集めて之を口径二十耗の圓筒樽で計るのである。目盛は耗まで刻んであつて口径は漏斗の十分の一になつてゐるから降水量は十分の一まで計られる。又自記雨量計といふのがある。

(2) 雨量分布原因

イ、海流との關係 濕氣を含んだ海風が陸上に送られて雨となる。殊に暖流の上を吹く風は濕氣を含んでゐるから雨を多くふらせる。

ロ、氣温が高いこと、氣温が高いと蒸發作用が盛んとなり、空中の水分が多くなるから雨量が多い。

ハ、地形、海岸に山脈が迫つてゐると山脈の兩側は雨量に著しいちがひが生ずるのである又高地は低地より雨が多い。

ニ、其他森林、水陸分布、火山爆發等も雨量に關係する。

(3) 本邦雨量の分布

夏は太平洋岸、冬は日本海岸に雨が多い。之は夏は南又は南東風が太平洋方面から濕氣をもたらし中央山脈に妨げられて雨を降らし、冬は對馬暖流の上を渡る北又は北西風が山脈

にあたり雪をふらせるのである。

時期から見ると六月は梅雨期で雨が多く、九月は低気圧の来る時期で雨が多い。十二、一月は日本海方面の外雨が少い。

(4) 等温線

等温線は平均温度を等しうする各地を連結した曲線で平均温度は各測候所で観測した實際の平均温度を同所の海面上に於ける數に改算したのである。

(5) 気温の分布原因

イ、緯度の高低 高緯度になるにつれて低緯度より気温が下つてゆく。

ロ、海流の関係 海流に暖流と寒流があるが其の影響の大なることは明かな事實である。

ハ、土地の高低 気温は輻射によつて高まるものであるから地表を距るにつれて気温が下るものである。

ニ、水陸の分布 海岸の地は比較的溫暖で海洋性の氣候をあらはし内陸は大陸性の氣候をあらはすものである。

ホ、其他太陽の距離、山脈の方向、風の方向等によりて異なる。

(6) 本邦気温の分布

本邦の気温分布は年平均等温線は殆ど緯線と並行するが、太平洋側が稍々東上りで日本海中には可なり大きな波がある。

一月等温線は海上が陸上よりも高温であること及び海洋、海流の影響を考へねばならない七月等温線は一月とは反對に陸地が海洋より高温なることに注意したい。

第二圖は各地方の氣候を學習する際に常に利用して読み方及考へ方を指導せねばならない(第三圖)

本圖で指導すべき事項を述べて見ると先づ第一にメカルト圖法であることを明かにせねばならぬ。これについては讀圖の指導の部に詳細に述べてあるから参照ありたい。

縮尺は千三百万分の一で従つて圖上の一程は實地の百三十軒にあたるのであること。

地勢これは詳細には分らないが大体これによつて分ればよいと思ふ又地勢が氣候に關係してあることも第二圖と對照したらよいと思ふ。日本近海の地形及海流もこれで了解せしめたいものである。

此の圖は地理書第一日本を取扱ふ際の主要圖であるが各地方を取扱ふ際の補助圖であるこ

とを注意せねばならぬ。

(第四圖)

これは行政區劃と地方區分とを示したものであるから其の意味で取扱ふべきである。行政區劃は政治上の區劃であつて、地方區分は地理學習上便宜全國を十一に分けたのである。

兩者に何等必然的關係はないのである。

三、地理的用語の指導

地理學習に於て讀書力のないものは眞の効果をあげる事はむづかしい。即ち地圖と地理書とは相離すことの出来ないものである。低學年中學年に於て地理的用語を習得してゐても地理書を讀解し得る兒童は少いので此の時期に於てはどうしても地理的用語を指導して地理學習の進歩をはからねばならない。然らば如何なる地理的用語を指導せねばならぬか地理書の順を追ふてあげて見る。

第一 日本

領土。四周。列島。半島。本島。群島。諸島。洲。氣候。雨量。平地。農産物。森林地

礦産物。交通。灌溉。發電。近海。暖流。寒流。水産物。農業。林業。鑛業。水産業。工業。原料。貿易。鐵道。航路。電信。電話。民族。行政。行政區劃。府縣廳。總督府租借地。諸官廳。政府。

第二 關東地方

區域。地勢。断面。山地。平野。灣。山脈。火山脈。火山。溫泉。運輸。支流。水運。動力。飲料水。流域。人口。産業。都邑。沿岸。海岸線。内地。養蠶業。製糸業。集散地。絹織物業。工業地區。鑛山。製鍊所。鑛石。炭田。漁獲高。漁港。淺瀬。起点。交通機關。幹線。トンネル。連絡。傾斜。海底電線。大都會。首府。政治上。經濟上。内閣。帝國議會。大公使館。開港場。防波堤。棧橋。繫船岸。輸出。輸入。四割。軍港。

第三 奥羽地方

位置。盆地。大分水嶺。一系。丘陵。高原狀。疏水運河。潟。海峽。牧畜。原野。山林。油田。油井。積雪。牧場。

第四 中部地方

雪溪。高峯。高地。精製。陶器。漆器。裾野。街道。無線電信。送信所。受信所。

第五 近畿地方

古蹟。要港。砂洲。潮流。水道。灘。高架橋。鹽田。

第六 中國地方

第七 四國地方

第八 九州地方

火口丘。關門

これ等の地理的用語は實地に即して指導せなければならぬ。初期には指導すべき語が非常に多く又指導事項も多いから適當に摺合して指導するより外にないのである。

四、地理眼の指導

地理學習に於ては地理的個性を認識すると共に共通の理法を適用して學習させ一面地理眼の指導につとめ、一面には能力經濟と時間經濟とを考へて學習能率をはからねばならない。地理の材料は豊富で殊に惱まされるのは時間に不足を生ずることである。

それにはどうしても教材を精選し、單化して行かねばならない。如何に單化し純化するかは指導者の學識と經驗とによるが教科書の持つ内容を充分研究して此處は産業發達の原因

を理解させる材料とかいふやうに模式的材料を選んで系統的に學習せしめねばならない。以下本學年に於ける模式的材料をあげて指導の要点を述べて見たい。

一、關東地方の模式的教材

(1) 火山脈、火山の模式としての那須火山脈、箱根山

イ、火山脈の意義

ロ、火山の成因

ハ、火山と温泉

ニ、火山の種類

ホ、火山と風景

ヘ、火山と地震

(2) 川の模式としての利根川

イ、川と平地との關係

ロ、川と人生との關係

發電、灌溉、運輸、排水、漁利、飲料水

(3) 平野の模式としての關東平野

- イ、平野の觀念と關東平野の面積
- ロ、平地の成因と平地の所在
- ハ、平地と人生との關係

地味、産業、人口、交通、都邑

(4) 農産物の模式としての米、麥、大豆、野菜、煙草

- イ、米—産地、産額
- ロ、米作の要素
- ハ、麥—分布、産額(産額圖)
- ニ、麥作の要素
- ホ、大豆—産額、産地
- ヘ、豆作の要素
- ト、野菜—大都市の需要
- チ、煙草—産地—專賣制度

リ、煙草作の要素

(5) 工業地区の模式としての京濱地方

- イ、我が國の中心地であること
- ロ、交通の便があること
- ハ、需要地を控へてゐること
- ニ、動力の供給良好
- ホ、勞力充分である
- ヘ、對内對外の位置良好

(6) 鑛山の模式としての日立鑛山

- イ、鑛山についての概観とその概念
- ロ、鑛石の種類と其の採掘法
- ハ、製鍊所と製鍊法の大略
- ニ、産額、用途、販賣

(7) 水産業の模式としての千葉縣

イ、寒暖二流のため漁族多きこと
ロ、大需要地を控へてゐること

(8) 陸上交通の模式としての本邦鐵道幹線

イ、東海、東北線は東京を起点として連絡す。起点の意義

ロ、東北東海、山陽線は本州の幹線であること。幹線の意義

ハ、設備、回数、速力

ニ、時間表の見方指導

ホ、郷土との關係、東京までの交通系

(9) 海上交通の模式としての横濱港を起点とする航路

イ、主要なる外國航路、所要日數、賃金

ロ、内外汽船の出入多きこと

ハ、海陸交通の連絡、設備

ニ、東京との連絡

(10) 帝都の模式としての東京

イ、日本全國より見て位置良好

ロ、政治上から見て中心地

ハ、經濟上の中心地

ニ、學術の中心地

ホ、商工業上の中心地

ヘ、遊覽都市

(11) 貿易港としての横濱

イ、港内深く天然の良港

ロ、設備の良好

ハ、東京の門戸であること

ニ、背後の良好なること

ホ、内外汽船の出入多し

ヘ、輸出入品の主なるものと取引國

ト、震災後の横濱港

(12) 軍港の模式としての横須賀

- イ、首府東京灣の防備と第一海軍區の受持
- ロ、軍港の要素にかなつてゐる
- ハ、軍港の設備がまゝのつてゐる
- 二、奥羽地方の模式的教材

(1) 縦山脈の模式としての奥羽山脈

- イ、山脈の河川に及ぼす影響
- ロ、氣候に及ぼす影響
- ハ、交通文化に及ぼす影響
- ニ、産業に及ぼす影響
- ホ、風俗習慣に及ぼす影響
- (2) 農産物の模式としてのりんご、じゃがいも
- イ、りんご—郷土のものはどこから来たか
- ロ、りんごの要素

ハ、じゃがいもに適する要素

(3) 牧畜業の模式としての馬の牧畜

- イ、牧畜の盛んな理由
- ロ、牧馬の實況
- ハ、馬匹の改良
- ニ、郷土の牧馬との比較

(4) 林業の模式としての米代川流域

- イ、杉の森林の發達した理由
- ロ、運材の方法
- ハ、製材業の發達
- ニ、販路及び用途

(5) 鐵道連絡船の模式としての青函連絡船

- イ、連絡船の任務と便利、青函間の時間
- ロ、青函の關係

ハ、神戸青森間の直通列車

三、中部地方の模式的教材

(1) 高山高地の模式としての飛弾山脈、飛弾高地

イ、風景

ロ、氣候と高山植物

ハ、高山と住民の氣質風俗

ニ、山岳と文化との關係

(2) 氣候の模式としての中部地方の氣候

イ、太平洋方面が日本海方面より溫和なる理由

ロ、日本海方面に積雪の多い理由及び狀況

ハ、中央高地の低溫なる理由

ニ、氣候と人文との關係

(3) 農産物の模式としての茶

イ、茶の多く出る理由

ロ、清水港の發達

ハ、宇治茶との比較

ニ、茶の取引狀態

(4) 養蠶製糸の模式としての長野縣の養蠶製糸業

イ、養蠶業の盛んなる理由

ロ、養蠶地帯の分布圖、繭産額圖の利用

ハ、岡谷が製糸業の中心地なること。其の盛んなる理由

(5) 絹織物業の模式としての福井の羽二重

イ、羽二重製造の盛んなる理由

ロ、福井の羽二重検査所と海外發展狀況(挿繪利用)

(6) 製陶業の模式としての名古屋附近

イ、製陶業の盛なる理由

ロ、陶磁器製法の大略

ハ、販路特に重要輸出品であること

(7) 製油業の模式としての新潟の石油

- イ、油田の分布、原油の存在状態、採油法の大略
- ロ、主なる製油所、製油所の有様、製油法の大略
- ハ、販路及び用途
- ニ、我國の石油問題

四、近畿地方の模式的教材

(1) 湖沼の模式としての琵琶湖

- イ、我國第一の大湖としての有様
- ロ、人生との關係、灌漑、運輸、水産物
- ハ、疏水運河となつて利用されること
- ニ、淀川となつて利用されてゐること

(2) 工業品の模式としての阪神の綿糸綿織物

- イ、綿糸の原料は米國、印度から神戸大阪を経て輸入すること
- ロ、紡績工場と紡績法の大略、(教科書挿繪利用)

ハ、綿糸を利用して綿織物の製造

ニ、綿糸綿織物の産額、(教科書挿繪参照)

ホ、綿糸綿織物は神戸、大阪から支那、印度へ輸出される

(3) 農産物の模式としての紀州蜜柑

- イ、蜜柑畑の有様
- ロ、密柑の出来るわけ
- ハ、販路郷土の蜜柑との比較

五、中國地方の模式的教材

(1) 横山脈の模式としての中國山脈

- イ、南北の氣候
- ロ、産業、交通、都邑の比較
- ハ、比較學習をなさしむ

(2) 牧畜業の模式としての牧中

- イ、牛の牧畜の盛なる理由

ロ、牛の飼養状況

ハ、主なる産地、用途

六、四國地方の模式的教材

(1) 製鹽業の模式としての坂出附近の鹽田

イ、製鹽業の盛なる理由

ロ、鹽田の状況と製鹽法の大略、(挿繪利用)

ハ、主なる産地

七、九州地方の模式的教材

(1) 農産物の模式としてのさつまいも

イ、さつまいもの適地

ロ、じゃがいもとの比較

ハ、副食物としてのさつまいも

ニ、さつまいもの沿革

(2) 工業の模式としての北九州の工業

イ、主要工業品

ロ、工業の發達せる理由

(3) 鑛産物の模式としての北九州の石炭

イ、石炭の主産地と産額、(挿繪利用)

ロ、炭坑の状況と石炭の採掘法の大略、(挿繪利用)

ハ、石炭は我が國主要輸出品の一つであること

ニ、主なる炭田と石炭輸出港

ホ、石炭産出の影響

以上の様な材料を學習し又幾多の材料を學習することによつて地理眼が指導され地理的生
活をするやうになられる。

五、地理學習法の指導

尋五の初期に於ける學習法の重要なことは高學年學習指導の部に詳細に論じてあるか
ら参照ありたい。

地理教育の向ふべき所、取扱ふべき材料は明示されてゐるが獨り其の學習法に至つては教

師そのもの、独自の方法であるが故に特に深刻な研究をなすべきである。
六、地理實習の指導

教師は常に優良な標本、地圖、圖表等を購入、作製してこれ等直觀材料を活用し、兒童は常に發動的に學習し、具體的な教師の説話と直觀材料の媒介によつて各地の真相を自ら理解し作業によつて眞に体得するやうに指導されることが望ましいことである。詳細なる實習は高學年の部に述べてあるから簡單に實習の一覽を示す。

日本	初期	區分	觀察	描圖	測定	統計	製作
方位上の位置 政治上の區分 氣温分布圖 雨量分布圖 記號の見方	郷土の自然直 觀界擴充			教室平面圖 學校平面圖 築山平面圖	距離測定 面積測定 雨量測定 氣温測定	氣温統計 雨量統計	
白地圖記入 領土 氣候 人種 政治區劃					距離測定 面積測定 氣候測定	氣候統計 人口統計 面積統計	

關東	奥羽	中部	近畿	中國
地勢の讀圖 產業の讀圖 都邑圖讀解 交通圖讀解 統計の見方	方位上の位置 地勢產業及交 通都邑	物産の鑑別	物産の鑑別 標本の鑑別	南北兩斜面の 比較
地勢圖描方 断面圖描方 透寫圖描方 產業、交通 都邑、氣候 地勢	地勢產業及交 通都邑の透寫 断面圖描方	見取圖記入 地勢產業及交 通都邑	見取圖記入	擴縮圖の描き 方
海深測定 地高測定 鐵道距離	鐵道距離及時 間の測定	土地の高低		
人口密度 米、麥產額 橫濱港の輸出 入額	人口密度 面積統計 氣候統計 產額統計	氣候統計 產額統計		
鋸屑模型	模型製作 旅行案内の 使用	橫型製作 旅行豫定製 作	模型製作 材料蒐集 旅行豫定製 作	模型製作

四國	南北兩斜面の比較	方	縮圖の描き	模型製作
九州	北九州と南九州との特色	方	縮圖利用 白地圖記入	旅行豫定製 模型製作
復習	各地方毎に整理實習をなさせる。今こゝに述べたものは一般的东西であるから實習の部参照せられて適當に御指導ありたい。			

第十章 尋六の地理指導

尋六と云へば尋常科の最高學年であらゆる方面に國民教育として完成すべき時期だと思はれるので充分の研究を積んで本學年の教育にあたらねばならない。で地理教育上は如何なる点に留意せねばならぬか項を追ふて述べて見たい。

(一) 郷土教育の徹底

本學年は尋常科としての最高學年としてやがて社會に送り出さねばならぬので郷土に関する教育の必要なることは論ずるまでもないことである。近時郷土教育が叫ばれ且つ師範學校に於ては郷土科が設けられる機運となつたことは實は喜ばしいことである。從來の教育はあまりに都鄙を問はず教材の見方も、學習の方法も劃一的でそこに郷土に立脚した教育と云ふものを見出し得なかつたのである。

國民教育が國家に立脚した教育である以上國家、郷土を背景にした教育であらねばならないことは申すまでもない。

(1) 郷土教育の目的

- 一、郷土の理解 從來郷土教育といへば直ちに教科の基礎的教育と考へられてゐた様であるが、先づ吾々は郷土そのもの、理解を明確にし、國土に於ける位置を充分に自覺せしめて、時代の要求する公民的精神の作興を圖つて、更に一層時勢に適應する堅實なる公民を教養せねばならないと思ふのである。
- 二、日常生活の理解 處世上必要な個人の識見を高め、日常生活に必須の知識技能を豊富にし、以て社會的國家的生活の向上と圓滑とを企圖せんとするのである。

凡ての學習が生活に即してなされねばならないことは云ふまでもない事で從來地理科が生活に即して居ないとか實生活に役立たないとか何の爲に地理科を學ぶか其の意義が分らないなどと云ふ様な非難の聲は固より地理科に對して當を得た批評ではあるまいが生活に即して當然觸れべく、且つ指導せねばならぬ日常必須の知識とか社會的識見などの養成を等閑にしてゐたその反動ではあるまいか。

三、基礎觀念の養成 教育が生活に即し、郷土に即してなされんとするならば郷土そのものを理解し其を基礎として想像類推せねばならない地理科の如き學科に至るまでも容易に學習の出來得る事は明かである。で郷土教育は各科教育の確實なる基礎觀念の養成に資されるものと思はれる。勿論郷土そのもの、みで各科の基礎は確立し得るものではない。

四、郷土精神の確立

郷土を理解する事と郷土精神の確立とは物の表裏か又は車の兩輪の如き關係にあるのである。眞に郷土を理解する時そこに愛郷の精神が湧き、理想郷土への建設の努力が起つて來、更に愛國心の發露へと進んで來るものである。顧るに交通機關の發達が不備で而

も永い間鎖國してゐた當時の國民は、一步も郷土を出づる様な事もなく郷土に生れて郷土に働き、郷土を世界と思つて郷土に終るものさへ多くあつたに違ひない。従つて他郷の人情や習慣は解かなくとも又國家世界の事情に没交渉でも直接國民の生活にこれといふ程の問題もなかつたことであらう。然るに今や総ての生活は社會—國家—世界の各國各事象と結びつけられてゐるが故にこゝに述べる愛郷心も單に狹義のものであつてはならない事を強調したのである。

(2) 郷土教育指導要項

一、郷土の自然

吾等の生活は自然と大なる關係のあるものであることは言ふまでもない。而も大自然によつて偉大なる教育をなされてゐる。偉人が自然の影響によつて輩出した例は多くある此の自然そのものを理解することは大切である。

二、郷土の文化

郷土の文化を理解し且つ郷土の文化を建設する様に努力せしめる。

三、郷土の歴史

郷土の歴史を明かならしめ、輝く郷土史をして更に輝かしめる様に着眼する。

四、郷土の民性

郷土の民性が直接郷土の盛衰、社會生活の緊張弛緩に著しい關係を有することは明かである。即ち郷土の民性を精鍊して國家社會の健全を圖るとか、各個人が自己の品性の向上に努めて公民として恥ぢざる品性を興へるといふ事は極めて重要な事である。

それには我々郷土の民性を悉知して民性の鍛鍊を圖ると共に各國民性の如何を理解し他山の石ともすべきである。又其の民性が郷土の發展、海外に發展に如何に關係してゐるかを考察することによつて、將來進むべき方向が明かにされると思ふ。

(3) 郷土教育の要領

一、郷土色の設備をすること

イ、郷土館—地理教育の環境の部参照

ロ、郷土史文庫の刊行

二、郷土色の施設をすること

イ、郷土記念日を有効に利用する

ロ、郷土科を設けて郷土科書によつて行ふこと

郷土科書の内容については項を改めて發表する。

三、各科教育の郷土化をはかること

(二) 世界地理の學習

(1) 世界地理學習の着眼点

世界地理教授の主目的とする所は世界を吾々國民活動の舞臺と見、吾人の生活に直接關係する地球上の地理を審かにして世界的識見を涵養すると同時に諸他の國の地理と我が國のそれとを比較對照することによつて本邦の國勢を一層闡明せんとするにあることは明かである。

世界地理學習に於て最も重要な主眼点を次にあげるならば

第一 我が國との關係を重視する

全世界はすべて吾々人類の活動舞臺である。就中我れと密接なる關係を持つてゐる地方は郷土乃至は自國の延長で國民日常生活活動の擴張舞臺と見るべきである。この見地から世界地理學習が特に我が國と關係ある地方乃至國家を重視して行くと云ふことは極めて意

義あることである。

外國との關係といふ場合には直接關係と間接關係の二方を考へられやう。勿論歴史的關係をも區別して考へる事も必要であらう。直接條件とは例へば我が國が支那に於て關東州を租借してゐるとか貿易品の輸出入等の經濟的關係を結んで居る様な關係である。間接關係と云ふのは支那の地に於ての我が國と米國との關係といふやうなものである。

從來世界地理學習に於て我が國と外國との關係を吟味する場合に關係といへば直接關係のみを見て間接關係を等閑視した様である。直接關係たるや勿論重視せねばならぬが、間接關係に却つて重大なる意義のあることを見逃してはならない。殊に國際的關係を闡明にしやうとせば列國間の間接關係を吟味せねばならない。間接關係を研究することによつて世界に於る國際的關係の真相にふれることが出来る。

第二 各國の特徴を把握する

地理科は地球上に於ける各地各國の自然的、人爲的の區劃に應じそこに實現されて居る自然と人文との特殊關係を究明せんとする學科であるとするならば漠然たる各地各國の地理断片的なる地理的事項の傳達の如きは大きいした價值のないものである。どうしても其の

地方の個性、其の國家の正體即ち特徴を把へて學習してゆかなければならない。何となれば其の地方、其の國家が持つ特徴なるものはそこに實現されてゐる自然と人文との特殊關係で偶然的のものでない。そこによつて來るべき本質的のものがあるからである。

各國の自然人文即ち位置とか地勢とか氣候とか又は産業、交通、都邑、國民性等を通し是等相互間の有機的關係を討ねる時に於て各國そのもの、個性―即ち特徴が自ら闡明にされるのである。國家の個性の理解は即ち國家の理解である。

實際の學習に於ては如上の諸点を教材の主眼とし、學習の中心として其の地方の自然と人文との關係を考察し、地理的事實を敷衍すべきである。故に各國各地の特徴を把へるといふことは一は教材の主眼の吟味となり、一は教材の敷衍の着眼を定めることになるのである。世界地理學習に於て吾人の望む所は實に多いが就中我が國と特に關係ある國家若くは地方を選び、その國家、その地方の特徴を明確に獲得させる事が極めて緊要なことであると思ふ。

第三 我が國と比較對照する

世界地理は世界そのもの、理解を目的とすると同時に本邦地理の理解をも主眼としてゐ

るのである。即ち其の取扱ふ精神は本邦地理の任務と何等異なる所はないのである。等しく本邦國勢の理解と愛國心の養成とに資すべきものである。結局本邦地理の學習は内部より國勢そのものを明にせんとするもので世界地理の學習は外部より本邦國勢の如何を明示せんとするものであると思はれる。

今日の如く國家が國際的に進んで來た時に一地方とか一國家だけの状態を理解したのみでは満足出來ない。どうしても世界に於ける我が國の地位、東洋に於ける日本の地位といふ様なものを知り、やがて世界に於ける自國の發展をはかるやうにせねばならぬ。即ち我が國は五大國に列して居るといふことは既に世界的地位を理解してゐるがそれのみでは満足出來ない。五大國は如何なる國勢をしてゐるか、自然人文に於て一々列強國と比較對照することによつて、我が國勢の世界的地位が一層明かになるのである。斯くして研究する時自ら國勢の如何が明かになるばかりでなくて世界に於ける列國の國勢なり、國民の活動状態といふものが一目瞭然と意識されるのである。

第四 世界的のものに着眼すること

世界的に顯著なものに着眼して學習すると世界各地の文化の有様を窺ふことが出来るの

である。勿論世界的に顯著なものは直接又は間接に我が國と關係を持つてゐるものであるが又其の地方其の國の特徴を表示するものであるかも知れない。かゝるもの、取扱ひには其の對象に應じて其の發達原因なり特徴なり設備なりを先づ明確にし、之を通して國家社會文化の發達なり、國際的關係なりを理解せしめるやうにつとめねばならない。

此處で尋常科の世界地理と高等科の世界地理の目的を述べて見たい。尋常科の世界地理は世界の大勢を知らせ、主なる國との關係について學習させ我が國の國勢の理解をはからうといふのである。即ち我が國との關係を重視し、世界に於ける我が國の地位を理解し、世界に於ける日本國民としての精神を確立せねばならぬ。高等科の世界地理は科學としての地理に近づけてある。

住民、政治、宗教、沿革等を加へてある。そして各國をまとめて學習させ其の國の國民性や國狀を理解すると共に尋常科より一層其の特徴及び我が國との關係を學習させる。

(2) 各洲總論の學習

各洲の概觀をさせて自然人文との二方面より其の特徴を知らせ、各國學習の出發点とする

と共に歸着点として行くことが此の課の目的である。

一、位置學習の着眼

自然的位置人文的位置等を地圖教科書地球儀等によつて學習させ直觀的に明瞭ならしめるやうにする。經緯線も必要に応じて利用する。

二、面積學習の着眼

世界陸地の何分の一とか、アジヤ洲の面積や日本の面積を基にして何分の一とか何倍と
か見てゆくやうにしたい。

三、地勢學習の着眼

○山脈

主山脈について位置方向高低を注意し次の事項を學習せしめるとよい。

- イ、河川との關係
- ロ、氣候との關係
- ハ、交通との關係
- ニ、産業との關係

ホ、文化との關係

○高原

- イ、高原と雨量との關係
- ロ、住民と生活關係
- ハ、高原と交通關係

○河川

- イ、河川の位置、方向、長さ
- ロ、河川の價值

○平原

- イ、平原と氣候
- ロ、平原と産業
- ハ、平原と交通
- ニ、平原と都邑との關係

○湖沼

イ、湖沼と交通

ロ、湖沼と水産物

ハ、湖沼と灌漑

ニ、湖沼と風景

ホ、湖沼と氣候との關係

○海岸

イ、海岸線の長短

ロ、人生との關係：交通上、軍事上

○島嶼

イ、氣候住民生物等大陸との差

ロ、交通、軍事、産業、貿易、歴史上の關係

○海洋

イ、自然狀態

ロ、水産業、氣候、交通、貿易、生物との關係

○氣候

イ、日本地理と同様

○産業

イ、自然と産業との關係

ロ、産業と住民との關係

○交通

イ、陸上交通—鐵道幹線と連絡系統

ロ、海上交通—日本より世界各地への交通系

ハ、航空交通—交通系統

○住民

イ、面積と人口

ロ、産業都邑氣候と人口

ハ、國民性

○政治上區分

イ、獨立國か否か

(3) 各國の學習

我が國と關係ある重要な國の地理の概要を學習し、其の國の特徴及び我が國との關係を理解すると共に我が國の國勢を明かにするのが本課の目的である。

一、位置

イ、自然的位置

ロ、人文的位置

ハ、我が國より見ての距離方向

二、面積

イ、面積人口は我が國と比較

ロ、人口密度を出す

三、地勢

イ、各洲總論の場合と同様

四、産業

イ、産業の現況と發達の理由

ロ、其の國の特産物

ハ、世界的の産物

五、交通

イ、我が國の交通と比較

ロ、我が國の交通、世界の交通との關係

六、貿易

イ、主なる輸出入品と取引先

ロ、我が國との貿易關係

七、都邑

イ、都邑の特徴、發達の原因—將來の發展

ロ、首府や貿易港は重視する

ハ、世界的の都邑は重視する

八、沿革

- イ、政治、外交、宗教、軍備等の一般
- 九、國民性
 - イ、國民性の長所、短所
- 十、總括
 - 一、位置、面積、地勢
 - 二、人口、國民性
 - 三、産業、貿易
 - 四、交道、沿革
 - 五、我が國との關係
- (4) 世界と日本の學習
 - 一、五大國と日本との比較
 - 二、三大洋に於ける交通貿易と日本の地位
 - 三、我國運と五大強國との比較、主なる條約國
 - 四、國民の覺悟

(三) 地理實習の指導
 詳細な地理實習については高學年の部に述べてあるから簡單に尋六に於ける地理實習の一覽を示したい。

區分	觀察	描圖	測定	統計	製作
北海道		擴縮圖描方 橫斷面圖 記憶圖	圖上の測定 距離、面積	産額表	模型製作 旅行表 標本蒐集
樺太		日露國境記入 産業圖製作 地勢、氣候圖 都邑分布圖	圖上の測定 郷土よりの距 離及方位	産額統計 氣溫統計	模型製作 標本蒐集
台灣		地勢圖、交通 産業、都邑圖 の記憶描圖	圖上測定 距離及面積、 時差測定	人口密度 氣溫統計 産額統計	模型製作 旅行表 模型地圖
朝鮮		地勢、産業、 交通、都邑、	面積、距離の 測定	産額統計 氣溫統計	模型製作 旅行豫定

南 米	大 洋 洲	南 洋	地 球
區域圖、地勢 産業分布圖 人口分布圖 邦人分布圖	區域、地勢圖 産業、氣候、 人口分布圖 邦人分布圖 見取圖、記憶	區域見取圖 産業、氣候、 交通圖(通信)	各種の地圖 經緯線描圖
距離日時の測 定	距離、面積	距離の測定	經緯線による 位置測定 時差測定
移民統計 面積比較 貿易統計	面積統計 貿易統計	氣候統計 産業統計	
模型製作	模型製作	旅行表	時差表

(四)地理眼の指導

模式的教材の必要なる事は之まで屢々述べて来た通りであるからこゝには尋六に於ける
主要教材をあげて見たい。

- 一、北海道地方
 - 1、北海道の農業
 - 2、北海道の水産業
 - 3、北海道の工業
 - 4、本國との經濟關係
- 二、台灣地方
 - 1、台灣の農業
 - 2、台灣の林業
 - 3、台灣の天日製鹽業
- 三、樺太地方
- 四、朝鮮地方

- 1、朝鮮の農業
- 2、朝鮮の林業

五、關東州

- 1、租借地としての關東州

六、亞細亞州

總論

- 1、ヒマラヤ山脈と人文關係
- 2、中亞細亞低地と人文關係
- 3、揚子江と人文關係

支那

- 1、支那と世界列強
- 2、香港
- 3、移民問題と滿蒙

支那本部

- 1、揚子江流域の産業と列國との關係
- 2、支那と日本との産業的關係

滿蒙

- 1、滿洲に於ける石炭、重油、鐵と日本との關係
- 2、滿洲に於ける森林と日本との關係
- 3、滿洲に於ける大豆と日本との關係
- 4、經濟的に見たる南滿洲鐵道と大連
- 5、內蒙古と日本との産業的關係

シベリヤ

- 1、凍原と人文關係
- 2、世界交通線と西比利亞鐵道
- 3、氣候、地形と産業關係
- 4、大森林
- 5、沿海州の森林と日本との關係

6、東海岸の漁業と日本

印度

1、印度棉

2、日本との關係

3、ジユート麻

4、印度人

5、英印關係

東南亞細亞

1、世界的のゴム

2、我が國食料問題と外米

3、日本人發展とゴム栽培

4、世界的のジャバ糖、日本との關係

5、マニラ麻

6、シンガポール

7、米國とフィリッピン關係

七、歐羅巴洲

總論

1、アルプス山脈と人文關係

2、交通系

3、ブドウ

4、甜菜

5、牛

6、北部森林帯と産業

7、鑛業と工業から見た歐羅巴

8、海運業

英國

1、世界最大國としての英國

2、世界の大都としての倫敦

3、工業地帯

フランス

1、強國としてのフランス
イタリア

1、強國としてのイタリア
ドイツ

1、強國としてのドイツ
ソヴェイエツト聯邦

1、自然とロシヤ人
オランダ

1、海とオランダ
ベルギー

1、工業國としてのベルギー
歐洲諸國と日本との關係

八、亞弗利加洲

1、サハラ沙漠と人文關係

2、アフリカ洲と交通

3、スエズ運河

4、ナイル河と農業

5、金、金剛石

6、駝鳥の飼育

九、北アメリカ洲

1、世界最富國としての合衆國

2、世界大都としてのニューヨーク

3、太平洋航路

4、パナマ運河

5、農業(棉、玉蜀黍、小麥)

6、畜産業工業

- 7、鑛産業(石油)
- 8、五大湖と附近産業との關係
- 9、日米關係
- 十、南アメリカ洲
- 1、南米と日本移民關係
- 十一、大洋洲
- 1、日濠關係
- 2、太平洋問題とハワイ
- 3、太平洋問題と我が南洋諸島

昭和五年十一月三日印刷
 昭和五年十一月十日發行

地理指導の體系

定價 金壹圓五拾錢

著作兼發行者 鹿兒島市長田町三十八
 山口 靜

印刷者 鹿兒島市東千石町九十三番地
 田代 運平

印刷所 鹿兒島市東千石町九十三番地
 鹿兒島印刷株式會社

電話 一長九二四番
 一〇二番

著作
 版權
 所有





